

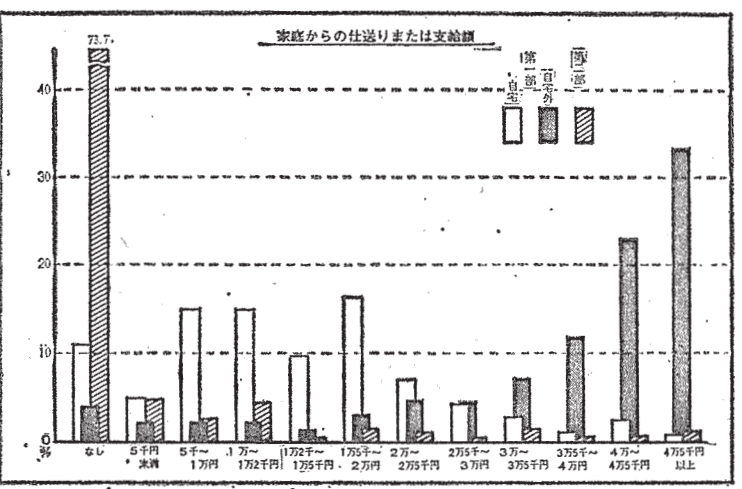
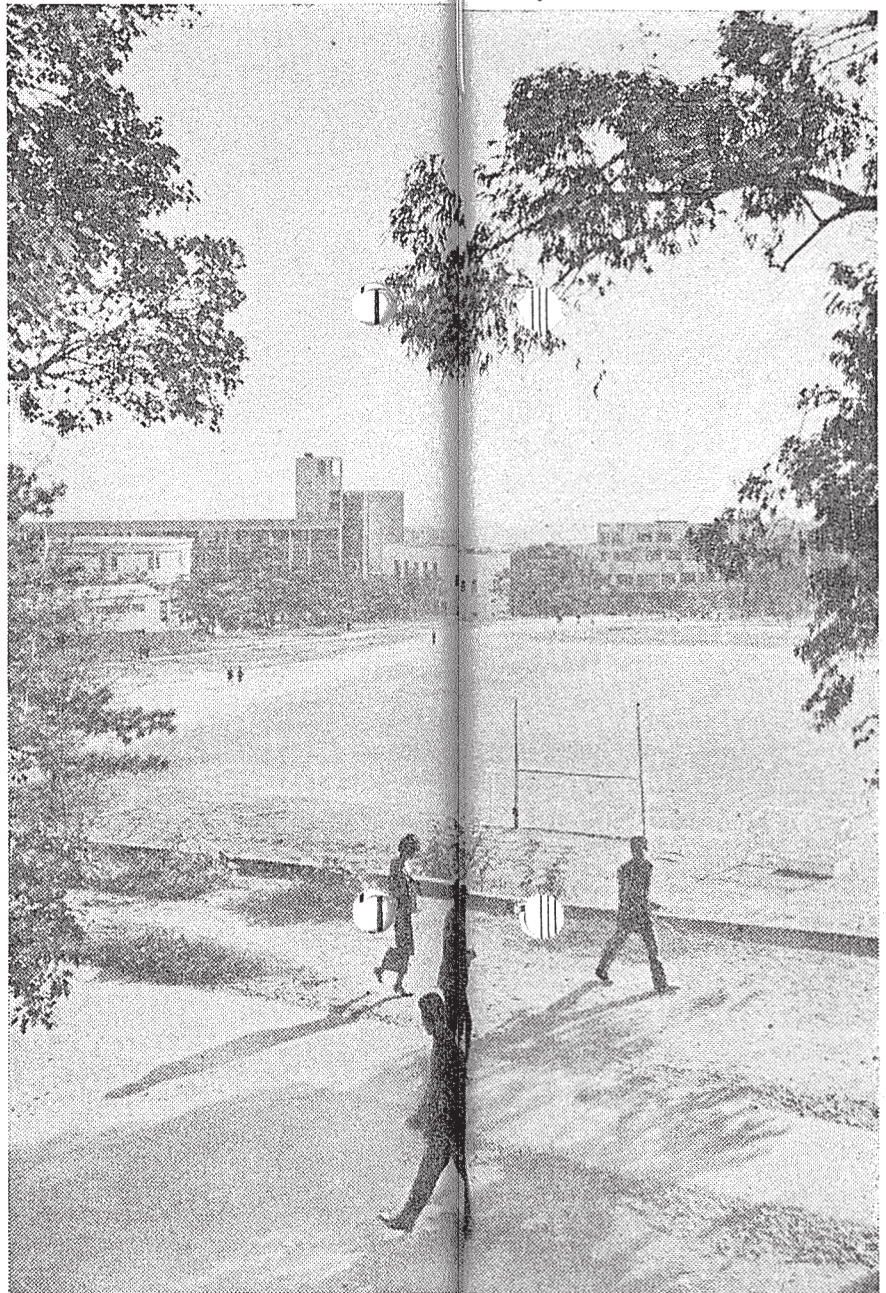
昭和50年度「学生生活実態調査」の集計

昭和50年度「学生生活実態調査」の集計が完了し、その結果がまとまってきた。今回の調査は、昭和50年度に在籍していた学生を対象として、その生活実態を把握するために行われた。調査の結果、学生生活は大きく変化したことが明らかになった。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

調査の概要

調査の目的は、学生生活の実態を把握し、その改善を図ることである。調査の対象は、昭和50年度に在籍していた学生であり、調査の方法は、アンケート調査と面接調査とを組み合わせて行われた。調査の結果、学生生活は大きく変化したことが明らかになった。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

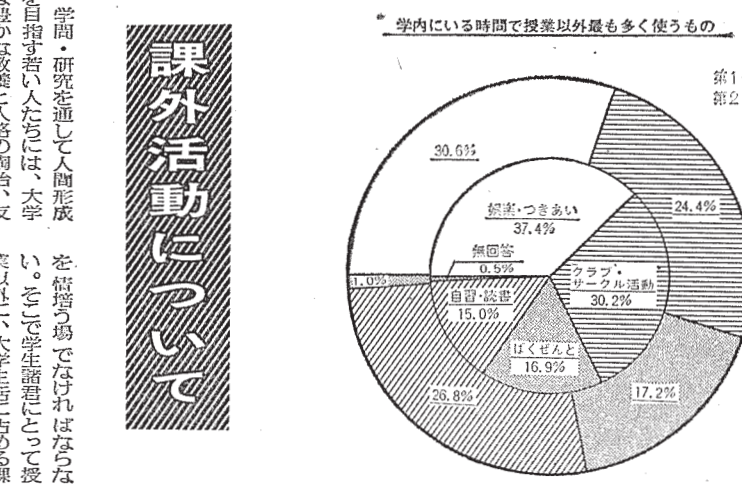
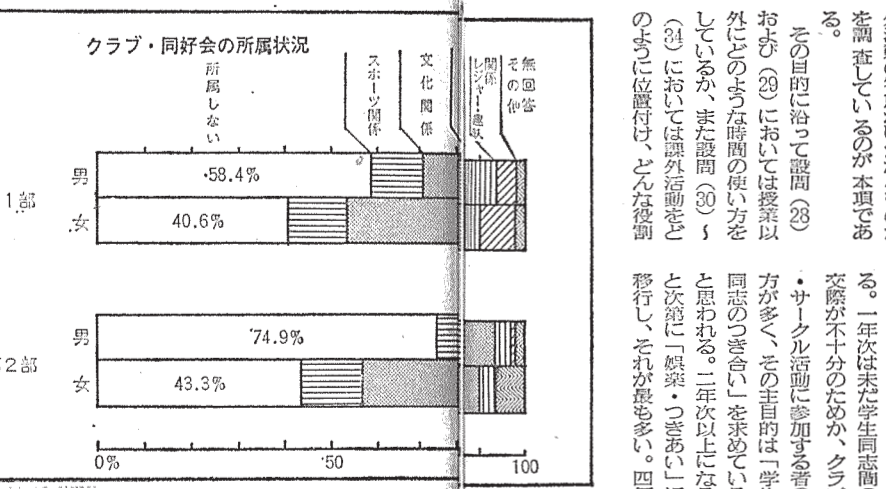
年次的変容を知る貴重な資料



経済生活について

学生生活は、経済生活と密接に関連している。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

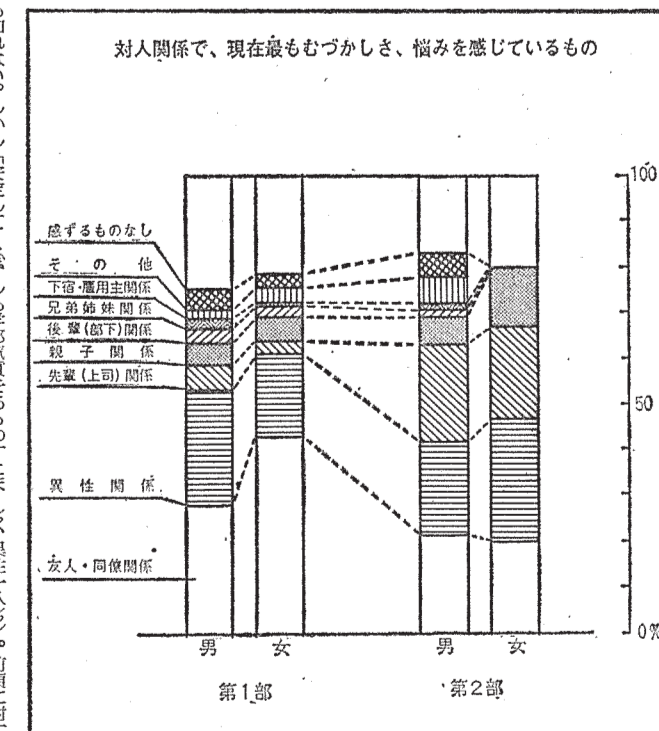


学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

対人関係

対人関係は、学生生活の重要な要素の一つである。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。



対人関係は、学生生活の重要な要素の一つである。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学生生活

学生生活は、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学内にいる時間で授業以外最も多く使うもの		第1部	第2部
読書	30.6%	37.4%	24.4%
睡眠	24.4%	30.2%	17.2%
食事	17.2%	16.9%	15.0%
学業	15.0%	15.0%	15.0%
その他	15.0%	15.0%	15.0%

学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

クラブ・同好会の所属状況		第1部	第2部
所属している	58.4%	40.6%	74.9%
所属していない	41.6%	59.4%	25.1%

クラブ・同好会の所属状況は、学内での生活と学外での生活のバランスを反映している。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学外活動

学外活動は、学生生活の重要な要素の一つである。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学外活動は、学生生活の重要な要素の一つである。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

学外活動は、学生生活の重要な要素の一つである。特に、学内での生活と学外での生活のバランスが、以前よりも重視されていることが分かった。また、学生生活に対する目標や考え方についても、大きく変化したことが分かった。今回の調査結果は、学生生活の改善や教育の充実に役立つ貴重な資料となる。以下に、調査の概要と集計結果について詳しく紹介する。

中國訪問記

足立 利雄



大字報と農村を見て

私の中国訪問の目的は、大字報と農村を見ること、おじいさんや子どもたちと話すことだった。

まず、ユニケーション・メディアとしての大字報について、研究していたことを確認してみたかった。上海、南京、揚州、北京と大字報をカメラでとらえ、機会あるごとにじっくり質問するので通訳や案内の中国人に「大字報先生」(タッパオ・センション)と呼ばれる始末。私の場合、その由来や様式、製作方法、発表のルールなどが問題で、ちょうど走査派批判が最高潮の三月下旬から四月初旬

る。「調査」などという時間はなくとも、見ればその変化はわかるはずだと思った。三十年間の新聞記者としての目に、いざさかの自負もある。

◇

正規に中国語を習ったことがなく、湖北、湖南省なまりの、いわく、湖北語の関西弁である。南切れが悪く、加えて日本語でも関西弁なので、その影響が中国語の四声にも及び、つまりアロークン。むづん語量も貧しい。少しくらい問い返しくり返しても会話に応じてくれるのは、ひまなおじいさん

中国の憲法（昨年一月制定）第十三条が保障するいわゆる四大民主「大鳴、大放、大弁論、大争論」のなかでも、大字報は登場、言論の自由についての独特でフリーミティブな発想であるというだけでなく、中国社会主義の本質にもかかわるものである。

大字報は遠報、顯報（いずれもカベ新聞）、黒帳報の伝統のほかからうまれた。一九三三年の毛沢東の農村調査報告のなかで顯報が通達、布告、ニュースのほかには農民の意見発表の場であったことが書かれている。解放区における運動

として、紙と墨と筆と鉛筆は書ける文字報とそれがいまや憲法によって保障されているわけである。マスコミにがんじがらめにされている先進国の大衆にとって、やはり魅力的な思想だ。

中国では、こんどの走資派批判も清華、北京大学の大字報から始まった。大字報が口から口へ、あるいは書き写されて、たちまちまたひろがり、やがてマスコミを動かす、全国に伝わり、中央から地方へ、地方から中央へと交差する有線を聞くことができた。

工場、学校、人民公社、団地な

ど、どこでも、みんなが綱入れを着て、布靴をはいている。

戦争中のみじめな状態とくらべるからかもしれないが、私には農村はたしかに豊かに美しいくらい、安定している、としかいいようはない。

人口の八割を占める農民が獲得したこの生活を支える体制、それが毛沢東とその思想によるものであることを彼らは素朴に確信している。たとえプロ文筆や天安門事件が何度くり返されても、農民たちはこの体制を守り抜くだろう。その自由の上に毛沢東の

文学部教授 山村猛己
 〃 助教授 渡辺幸博編著
 〃 〃 小川雅也
 『知識人 その
 虚像と実像』
 (創元社・一三〇〇円)

本書は、カウゼンクの小説と向き、恰好の入門書である。専門分野における概観的でしかも専門的な本が少ない折から、行田教授がこの好書を選び翻訳の勞をこられたこの点である。

本書の構成は、第一部カウゼンクの本質、第二部カウゼンクのアプローチ、第三部カウゼンクに対する心理学の貢献、第四部科学者としてのカウゼン、第五部専門家としてのカウゼンセラールとなっている。

カウゼンクについての専門的な知識と技術は、敬職、福祉関係、心理関係、面接・相談をよびその要因などを追求した労

高次生層の磁石を連ね、
の存在に疑いをもち、いろいろ
のラシカル反応には電子移動とい
うエが先に起るのではないかと
つづか、また、ラシカル反応の速
度をきめるのに活性化エネルギー
(E)が一般に小さくはなけれ
ば判断するのは無理でエントロピ
ー項 (S) のデーターは数少ない
いが、 $\frac{1}{2}$ の $\frac{1}{2}$ を入れた自由エネルギー
ー変化でいい直すべきであるとい
う深い見識と、全く新鮮な感覚の
下で書かれた本といえる。本書は
十四章からなり、フリー・ラシカル
ルの立体構造、生成機構、飽和、

だったが、忙しい日程のせいもあって、内容をくわしく読む事はなかった。つまり、見た、わけてある。

農村を「見る」のは、現在の中国は、農業を基礎とし、工業を導き手とする。のだから、その農村こそが問題だと考えた。私は戦争中に五年余り中国にいて当時の農村や農民の状態をかなり知っている。



“老人” “こども” と話す

見かたは普通の綿服と布靴、ひつ
つめ髪のおはばいである。みんな
質素で清潔で、平均化している
が、昔とくらべると、みんな少し
いはばた顔つきになっている。と
くに青年たちが胸をはっている感
じだ。うっかり質問はできない。
たちまち中日両国の世世代代の友
好とか農業は大業に学び、とか大
弁論をやるわれてしまつ。書店は

「知識人に何ができるのか」「知識人の本来の任務は何か」などをめぐって三十数回に及ぶ討議研究会をへてつくり上げた点にある。

今年度から総合コース「知識人論」が新設されたが、この総合コースは著者たちの七、八年十月以来過去四年余に及ぶ共同研究の積み重ねの上に成立していることは注目に値する。

（関西大学出版・広報部
二四〇〇円）

学校での進路相談、公共機関での雇用相談や福祉問題のカウンセリング、事業所での職業カウンセリング、結婚カウンセリングといふように、カウンセリングが果している社会的役割は大きい。そして相談に行く人にとっても、そ

社会学部教授 前田 卓著
『姉家督』
(関西大学出版・広報部
二八〇〇円)

工学部教授 井本 稔著
『有機反応序説
フリーラジカル』
(化学同人・三二〇〇円)

周知の如く、日本社会における
人間結合の原型はイエとムラであ
る。

水稲栽培を主とする日本農業に
おいては、人々は先祖伝来の土地